

(3) 爬虫類

レッドリストに掲載された各爬虫類について、種ごとに形態的な特徴や分布、県内の状況等を解説した。記述の項目、内容等は以下の凡例のとおりとした。情報不足種についても、絶滅危惧種と同じ様式で記述した。

【掲載種の解説（爬虫類）に関する凡例】

【分類群名等】

対象種の本調査における分類群名、分類上の位置を示す目名、科名等を各頁左上に記述した。目・科の範囲、名称、配列は、原則として「日本産爬虫両生類標準和名」（日本爬虫両棲類学会,2008）を基に、新しい知見を加え整理した。

【評価区分】

対象種の愛知県における評価区分を各頁右上に記述した。参考として「爬虫類レッドリスト」（環境省,2006）の全国での評価区分も各頁右上に記述した。また、各評価区分に対応する英文略号も同じ場所に記述した。

【和名・学名】

対象種の和名及び学名を各頁上の枠内に記述した。和名及び学名は、原則として「日本産爬虫両生類標準和名」（日本爬虫両棲類学会,2008）を基に、新しい知見を加え整理した。

【選定理由】

対象種を愛知県版レッドデータブック掲載種として選定した理由について記述した。

【形態】

対象種の形態の概要を記述した。また、一部の種については写真を掲載した。

【分布の概要】

対象種の分布状況の概要を記述した。また、本調査及び平成9年度から平成13年度にかけての「レッドデータブックあいち2002動物編」作成時の調査において、対象種の生息が現地調査、文献調査及び標本調査によって確認された地域のメッシュ（標準地域メッシュ・システムにおける5倍メッシュ）を県内分布図として掲載し、現地調査による確認地域、文献調査または標本調査による確認地域を●印で表示した。なお、同一メッシュ内に含まれる生息地が複数であっても1点として表示した。

【生息地の環境 / 生態的特性】

対象種の生息地の環境条件及び生態的特性について記述した。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

対象種の愛知県における現在の生息状況、減少の要因等について記述した。

【保全上の留意点】

対象種を保全する上で留意すべき主な事項を記述した。

【特記事項】

以上の項目で記述できなかった事項を記述した。

【引用文献】

記述中に引用した文献を、著者、発行年、表題、掲載頁または総頁数、雑誌名または発行機関とその所在地の順に掲載した。多くの種に関連する文献については、以下の略号を用いた。

- 日動百 : 日高敏隆監修,1996.日本動物大百科 5 両生類・は虫類・軟骨魚類.平凡社.
愛両は : 愛知県両生類・は虫類研究会,1996.愛知県の両生類・は虫類.
愛知県農地林務部自然保護課.
保両爬 : 中村健二・上野俊一,1953.原色日本両生類爬虫類図鑑.保育社.
平両爬 : 内山隆・前田憲男・沼田研児・関慎太郎,2002.決定版日本の両生爬虫類.平凡社.

【関連文献】

対象種の理解の助けになる一般的文献を、著者、発行年、表題、掲載頁、雑誌名または発行機関とその所在地の順に掲載した。多くの種に関連する文献については、【引用文献】の項に示した略号を用いた。

【 爬虫類 執筆者 】

大竹 勝

【 爬虫類 調査協力者 】

次の方々に現地調査、標本提供、資料参照等で協力していただいた。

市川哲生	大仲智樹	大須賀哲夫	小野寺慎吾	近藤 守	小林秀司	酒向一正
杉山貞幸	中藺洋行	中西 正	野呂達哉	原田猪津夫	平林孝夫	藤谷武史
堀川大介	間野隆裕	山岡雅俊	山上将史			

(敬称略)

アカウミガメ *Caretta caretta* (Linnaeus)

【選定理由】

静岡県から伊良湖岬までの海岸線は、中部地区最大のアカウミガメ産卵地であるが、産卵数はピーク時の半数にも満たない。近年の傾向では一定の水準を保ってはいるが、この状況が大きく改善される可能性が少ない。

【形態】

雌の繁殖個体は、直甲長は平均 800mm 程度。頭部は大きく頑健。成体の背面は赤褐色。腹面は黄褐色。幼体はともに黒褐色。下顎鱗板は 2~4 対。通常肋甲板は 5 対。前額板は 2 対。重縁甲板は 3 対。背甲鱗板は敷石状で甲の周辺は平滑である。下顎鱗板が複数対あることで他のウミガメ類と区別できる。



豊橋市提供

【分布の概要】

県内では遠州灘に面する渥美半島外浜一帯（豊橋市、田原市）。知多半島でも産卵があるが少ない。国内での産卵は本州中部（石川県、福島県）以南から九州の太平洋岸、南西諸島。国外では太平洋、大西洋、インド洋に広く分布。地中海にも生息する。温帯、亜熱帯に産卵場所を持つ。

【生息地の環境 / 生態的特性】

砂浜海岸、沿海域、外洋に生息する。産卵場所として砂浜海岸。生育場所として海洋表層部を必要とする。産卵期は 4~8 月。雌は 2~3 回にわたり上陸産卵する。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

海洋の生息状況は不明であるが、上陸産卵数はほぼ横ばい状態である。一番大きな要因は河川による砂の供給不足による、砂浜の減少である。併せて海岸利用の多様化による産卵環境の悪化がある。

【保全上の留意点】

砂浜利用による卵の踏みつけや夜間照明により砂浜環境が悪化しないよう、十分な配慮が必要である。

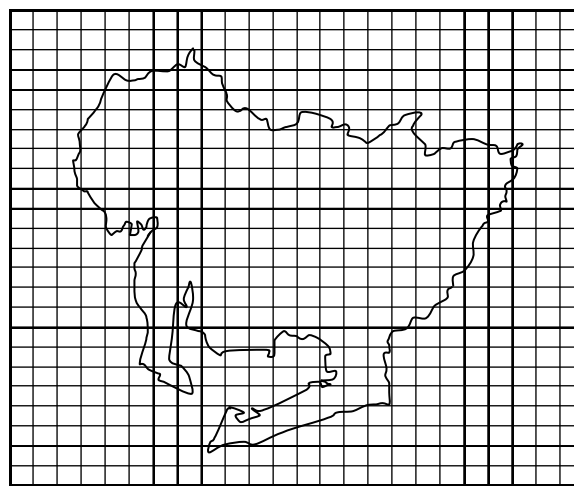
【特記事項】

上陸個体は光に反応して上陸を回避する。孵化した子ガメは光に誘引され海と反対方向に向い、海に帰ることなく外敵に襲われる。

【関連文献】

豊橋市, 2007. 平成 18 年度 豊橋市におけるアカウミガメ保護調査活動に関する報告書.
保岡 75、愛岡は 70-74、平岡 164-165.
内田至, 1998. 日本の希少な野生生物に関するデータブック, pp.236-237. 日本水産資源保護協会.

県内分布図



ニホンスッポン *Pelodiscus sinensis japonicus* (Temminch et Schlegel)

【選定理由】

各地で養殖されていた個体が逸出して、現在確認されているのが、在来亜種か輸入亜種なのか明確に確認されていないことから評価を情報不足とした。

【形態】

体の背面は灰褐色。背甲は扁平で鱗板を持たず、柔らかな皮膚に覆われる。鼻孔の先端が強く突出し、肉質の口唇を持つ。腹甲は扁平、四肢は太く短く、指趾間に水かきが非常によく発達している。尾は極めて短い。甲長：15～17cm。

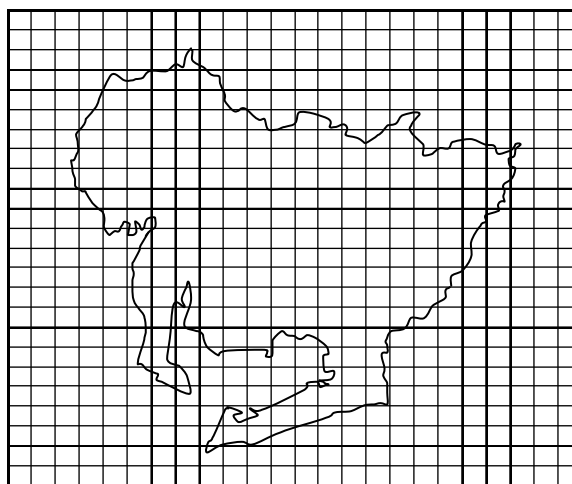


三重県長島町, 大竹 勝 撮影

【分布の概要】

県内では山地から平野部までの河川や池などに生息する。国外での基亜種分布は、シベリア東南部、モンゴル、中国、台湾。ベトナム北部と広いが、本亜種 *japonicus* については不明の点が多い。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

完全な淡水性。中・下流域の底が砂泥質の河川、池、沼等に生息する。貝類、甲殻類、水生昆虫、魚類などを捕食する。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

生息状況は詳細不明。河川の三面張り工法は産卵のための上陸が阻害される。

【保全上の留意点】

カメ類は陸上で産卵することから、採食環境の保全も重要であるが、産卵場所の維持は不可欠である。生息場所から上陸可能な環境の整備が必要である。

【特記事項】

本種は本県においては広く養殖され、多くの個体が逸出している。養殖種は大陸からの輸入種が多く在来亜種との交雑も多く、各亜種の関係が明確ではない

【関連文献】

愛両は 80-81、保両爬 84、平両爬 192-193。

タカチホヘビ *Achalinus spinalis* Peters

【選定理由】

夜行性であることから確認例が少ない。分布域は広いようであるが、個体数など不明な点が多く実態が明らかではないことから評価を情報不足とした。

【形態】

頭部は細長く、くびれはほとんどない。眼は小さい。体背面は紫がかった赤褐色、光沢があり、背中線上を細い1本の黒色縦条が頸部から尾部にかけて走る。体鱗はビーズのように盛り上がり真珠光沢がある。鱗は重ならず、間に皮膚が露出する。腹板数は、雄 143~153、雌 40~52。体鱗列数 23 列。他のヘビは尾下板が対になっているが、本種は単一であることから区別出来る。体長 30~60cm。



犬山市, 大竹 勝 撮影

【分布の概要】

県内では東三河から尾張部にかけての丘陵部。平野部でも環境のよい社寺林等に生息する。国内では本州、四国、九州と沿岸島に分布する。国外では中国大陸に分布する。

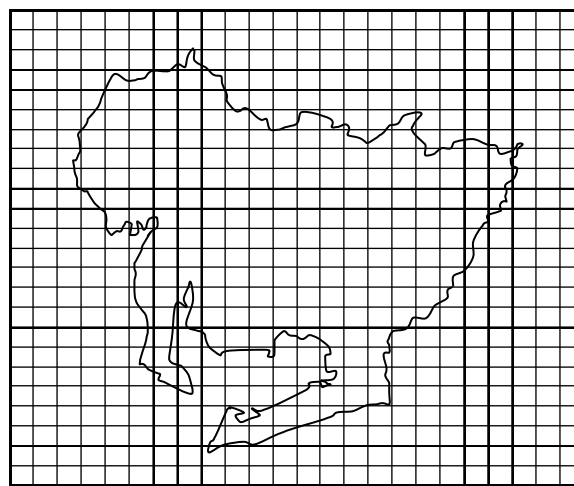
【生息地の環境 / 生態的特性】

生息環境は森林で、平野部の社寺林にも生息する。乾燥にはきわめて弱い。半地下性で夜間に活動し、ミミズを食する。6~8月頃 3~13個の卵を産む。詳細不明。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

比較的分布は広いと考えられるが詳細は不明。

県内分布図



【保全上の留意点】

丘陵地等の開発では、湿潤な森林環境を保全する。

【特記事項】

生まれたばかりの幼蛇は全体に黒っぽく、背中線条が目立たない。

【関連文献】

愛両は 88-89、保両爬 142、平両爬 256。

シロマダラ *Dinodon orientale* (Hilgendorf)

【選定理由】

夜行性であることから確認例が少ない。分布域は広いようであるが、個体数など不明な点が多く実態が明らかではないことから評価を情報不足とした。

【形態】

頭部は比較的大きく黒褐色、側頭部の後方から後頭部にかけて白っぽい斑紋がある。背面は扁平で頸部はあまりくびれない。灰色褐色の地色で、胴に40個内外、尾に15~20個の黒色横帯が並ぶ。胴体中央の体鱗は17。瞳孔は縦長の楕円形。全長30~70cm。



静岡県水窪町, 山上将史 撮影

【分布の概要】

日本固有種。県内では山地、丘陵部での記録があるが確認情報は少ない。国内では本州、四国、九州、佐渡島、隠岐島、壱岐島、五島列島、男女群島の女島、種子島、屋久島、硫黄島、伊豆大島に分布。

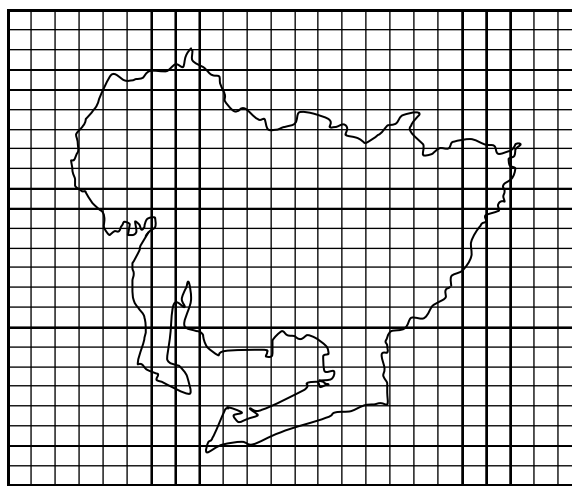
【生息地の環境 / 生態的特性】

樹林地、河川敷などにもすみ、多様な環境にすむと考えられる。夜行性でトカゲや小型のヘビなどの爬虫類を食べると言われているが、詳細は不明である。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

本種が夜行性であることから、調査は不十分で確認例が少なく、生息状況も不明である。

県内分布図



【保全上の留意点】

本種は、夜行性で昼間は構造物や石の下に潜んでいることが多い。樹林地の保護や林床の保全に留意することが必要である。

【特記事項】

威嚇や攻撃で効果がないと体を硬くして擬死状態になる。特有の縞模様と、追い詰められたときの攻撃姿勢から、有毒のママシとの混同から殺傷されることが多い。

【関連文献】

愛両は 96-97、保両爬 159、平両爬 283。